

生誕の地ペーザロ

本書の主人公ロッシーニがこの世に生を受けたのは 1792 年、アドリア海に面した中部イタリアのペーザロ (Pesaro) においてである。教皇領に属するマルケ地方の中でもとりわけ洗練されたこの小都は、豊富な農産物とアドリア海の恵みが住民の生活を潤していた (現在はウルビーノと共にマルケ州ペーザロ・ウルビーノ県の県都をなす)。

名称をラテン語の「ピサウルム (Pisaurum)」に因むペーザロは、紀元前 2 世紀にローマの植民都市として建設され、774 年にフランク王国カール大帝 (Charlemagne, 742-814. 在位 768~814 年) によって教皇領に移されながらも事実上カロリング王国の支配下にあった。紆余曲折を経て完全に教皇直轄地となったのは 13 世紀。ルネサンス期にはマラテスタ家 (Malatesta 統治期間は 1285~1445 年) とスフォルツァ家 (Sforza 統治期間は 1445~1512 年) が実質的な支配者であったが、教皇ユリウス 2 世 (Julius II, 1443-1513. 在位 1503~13 年) の尽力で 1513 年にデッラ・ローヴェレ家 (Della Rovere) の領地となり、以後 1631 年まで 100 年以上にわたって同家が支配した。

文化的繁栄もこのデッラ・ローヴェレ時代に築かれ、町を取り囲む城壁も造営された (図 1)。この城壁は第二次世界大戦後に完全に取り壊され、現在は僅かな痕跡を残すのみとなっており、19 世紀末の版画や 20 世紀初頭の写真に、壁の外に広がる農地が見て取れる。図 2 と 3)。重要な歴史的建造物——モンターニ・アンタルディ宮殿、ポポロ広場と八角形の噴水、丘陵に佇むヴィッラ・インペリアーレー——もデッラ・ローヴェレ時代の産物である。



図 1 1581 年のペーザロ (16 世紀の版画より部分)



図 2 19 世紀のペーザロの遠景 (版画、1892 年)



図 3 20 世紀初頭のペーザロの写真 (1920 年以前)

1631 年 4 月 23 日、デッラ・ローヴェレ家の治世はフランチェスコ・マリーア・デッラ・ローヴェレ 2 世 (Francesco Maria II Della Rovere, 1549-1631. 在位 1574~1621, 23~31 年) の死により終わりを告げ、再び教皇領に戻されたペーザロは枢機卿の管区となった。1774 年の人口は約 1 万 2 千人。教区教会が六つあり、十の男子修道院と四つの女子修道院が置かれていた¹⁾。

ペーザロとその周辺地域は 15 世紀からマジョリカ [マヨリカ] 陶器の製造でも知られ、ルネサンス・バロック期の名品が市立博物館の陶器博物館 (Museo delle Ceramiche) に展示されている。ドゥオーモ通り (現・ロッシーニ通り) にある大聖堂 (Cattedrale di Santa Maria Assunta) は 19 世紀にネオクラシック様式で再建され、入口部分に 13 世紀末~14 世紀初頭ロマネスク様式のオリジナルが嵌め込まれている (図 4)。大聖堂の地下 1.6m と 2.1m には 4~5 世紀と 6 世紀に作られた二層のモザイク床があり、人魚の姿も描かれている (図 5)。このモザイク床は 19 世紀に存在が確認されていたが、完全な発掘と修復により全貌が明らかになったのは 2000 年で



図 4 ペーザロの大聖堂



図 5 発掘されたモザイク床の人魚

知られ、夏には海水浴場とロッシーニ音楽祭が賑わいをみせている（現在の人口は約9万4千²）。

ロッシーニの両親と、ジョアキーノの誕生

ロッシーニの父ジュゼッペ（Giuseppe Rossini, 1764-1839）は1764年3月13日³、ペーザロの北西約100kmに位置するロマーニャ地方ルーゴ（Lugo）に生まれた⁴。ルーゴのコムーネ⁵にトランペット奏者の職を得たジュゼッペは、1787年1月30日に父ジョアッキーノ・サンテ（Gioacchino Sante Rossini, 1739-87）を亡くし、翌88年末、ペーザロの太陽劇場（Teatro del Sole, 1637年開場。現在のロッシーニ劇場の前身⁶）のオペラ上演に参加した。演目は、ジュゼッペ・ガッツァニーガ作曲《葡萄摘み（*Le vendemmie*）》とピエートロ・アレッシンドロ・グリエルミ作曲《高貴な羊飼いの娘（*La pastorella nobile*）》である。

演奏技術を評価されたジュゼッペは1789年3月にペーザロ市のラッパ手に求められ、フェッラーラ軍楽隊のホルノ・ダ・カッチャ〔狩猟ホルン〕奏者を経て翌90年3月ペーザロに移住し、同年4月29日コムーネの正式職員となった。広場でトランペットを吹いて市民を集め、役所の公示やマニフェストを声高に読み上げるのが主な仕事で、劇場と音楽アカデミーの演奏会ではホルンやトランペットの奏者を務めた。

深刺りとした性格で「ヴィヴァツァ（Vivazza〔張り切り屋〕）」と呼ばれたジュゼッペは、ファッコ通りのグエッリーニ家の建物に間借りし、母アントーニア・オリヴィエーリ（Antonia Olivieri [Rossini], 1734-1816）と妹フローラ（Flora Rossini, 1772-?）と共に暮らした（図6）。同じ建物の住人にパン職人ドメニコ・ガイダリーニ（Domenico Guidarini, ?-?）とその妻ルチーア・ロマニョーリ（Lucia Romagnoli, ?-?）がおり、彼らの間に3人の子——アンナ（Anna Guidarini, 1771-1827 図7）、アンヌンツィアータ（Annunziata Guidarini, ?-?）、フランチェスコ・マリーア（Francesco Maria Guidarini, 1780-?）——がいた⁷。ルチーアはウルビーノの出身で、娘アンナは料理人として働き、アンヌンツィアータは1788～89年の警察記録で娼婦とされている。



図6と7 父ジュゼッペと母アンナの肖像（部分）

ジュゼッペ・ロッシーニは町一番の美人アンナと恋に落ち、2人が1791年9月26日⁸に結婚式を挙げたとき、アンナのお腹はそれと判るほど大きかった。未婚で妊娠した娘はとかく悪評をたてられる。町ではお腹の子の父に関してあらぬ噂が囁かれたが⁹、熱血漢のジュゼッペは意に介さなかったようだ。そしてドウオーモ通り334番（現在のロッシーニ通り34番）の建物に新居を構えると、結婚5ヶ月後の1792年2月29日、一人息子ジョアキーノが誕生した¹⁰。ペーザロの司教区歴史資料館に保管される洗礼簿にはその名がジョヴァッキーノ・アントーニオ（Giovacchino Antonio）と記帳されたが（図8と9）、後にロッシーニが好んで Gioachino と署名したことから、現在はジョアキーノ・ロッシーニ（Gioachino Rossini）が公式に使用される¹¹。

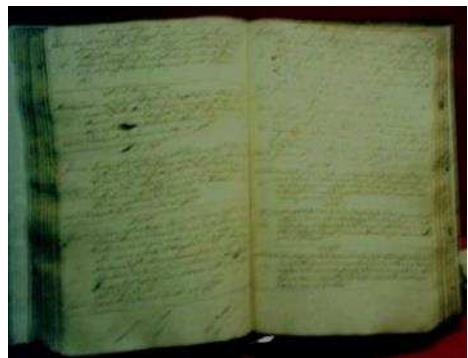
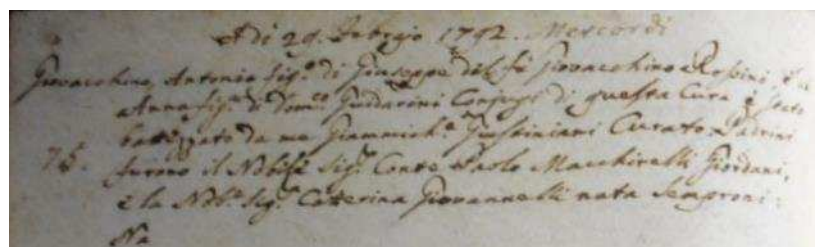


図8 ペーザロの洗礼簿（筆者撮影）

図9 洗礼簿のロッシーニに関する記帳
（洗礼簿の左頁最上段の写真複製）



<p>a Di 29 Febrajo 1792. Mercoledì</p> <p>Giovacchino, Antonio fig.^o Giuseppe del fù Gioacchino Rossini, e di Anna¹² fig.^a di Dom.^{co} Guidarini Coniugi di questa Cura è stato battezzato da me Giammich.e Giustiniani Curato. Padrini</p> <p>75. [註] furono il Nobile Sig.^r Conte Paolo Macchirelli Giordani, e la Nob.^e Sig.^a Caterina Giovannelli nata Semproni : Na [註]</p>	<p>1792年2月29日 水曜日</p> <p>ジョヴァッキーノ・アントーニオ、故ジョヴァッキーノ・ロッシーニの息子ジュゼッペとドメニコ・ガイダリーニの娘アンナ夫妻〔の子に〕執行者たる私ジャンミケーレ・ジュスティニアニがその洗礼式を行えり。名付け親、貴人パオロ・マッキレリ・ジョルダニ伯爵と貴婦人カッテリーナ・ジョヴァンネリ 生名センプローニ： 出生</p>
---	--

註：「75」は同年75番目の記帳を表す。末尾の「Na」は洗礼日より前に生まれた際の日付を書くための略号と推測。

ロッシーニが生まれたのは、4年に一度しか誕生日の来ないうるう年の2月29日。洗礼記録が受洗日のみであることから、誕生日に洗礼を受けたと認定されている（ペーザロの洗礼簿では受洗日に先立つ誕生日が別記される）。その日はモーツァルトの死の2か月半後に当たり、ウィーンでは22日前（2月7日）にチマローザ作曲《秘密の結婚》が初演されていた。

ジョアキーノが生まれた家は生誕100周年の1892年にペーザロ市の所有となり、数度の改修を経てロッシーニの家（Casa di Rossini）として公開されている（図10）。ロッシーニと歌手の肖像画、楽器などが展示され、地下室ではロッシーニ・オペラ・フェスティバルの上演映像を鑑賞できる（2015年の改修で3階部分も展示室となった）。15世紀建築と推測されるオリジナルの建物は2階建てで屋根裏部屋があり、内部が中央壁で左右に仕切られ、入口は左右に二つあった。現在のように3階と4階が増築されたのは18世紀の大規模改修の結果で、ロッシーニ家は路地（ガヴァルディーニ通り）に面した右半分の2階部分に一部屋か二部屋を間借りしていた（オリジナルの建物の屋根と窓の痕跡は、路地側の外壁に見て取れる。図11）¹³。大家はスペイン人枢機卿サヴェリオ・プーガ（Saverio Puga 生名 Xavier P.Puga, 1729-98）。建物の正面にある銘板は1843年ペーザロ市によって設置され、「QUI NACQUE / GIOACCHINO ROSSINI / ALLI 29 FEBBRAIO 1792（1792年2月29日、ジョアッキーノ・ロッシーニここに生まれた）」と記されている（図12）。



図10 ロッシーニの家



図11 外壁に見るオリジナルの痕跡



図12 1843年に掲げられた銘板

¹ Pierpaolo Bellucci, *La Chiesa pesarese nel periodo napoleonico*. [La diocesi di Pesaro nel periodo napoleonico – Ciclopress] <http://www.ciclopress.it/img/La%20diocesi%20di%20Pesaro%20nel%20periodo%20napoleonico.pdf>

² ペーザロ市のホームページによれば、2015年12月31日に94,582人。 <http://www.comune.pesaro.pu.it/index.php?id=8214>（2016年5月15日アクセス）

³ かつて1758年10月3日生まれとされたが、現在は否定されている（誤謬を引き継ぐ現代のロッシーニ伝もある。例、Kendall, 1992）。

⁴ 父ジュゼッペに関するドキュメントは Josef Loschelder, *L'infanzia di Gioacchino Rossini. Conferme e completamenti dello scritto dell'Albarelli*. (in *Bollettino del Centro rossiniano di studi della Fondazione Rossini di Pesaro*, Anno 1972, n. 1), pp. 45-63. 及び同 *L'infanzia di Gioacchino Rossini. Sulle tracce dell'Albarelli – Conferme, Lacune, Completamenti*. (in *Bollettino del Centro rossiniano di studi della Fondazione Rossini di Pesaro*, Anno 1972, n. 2), pp. 33-53. 参照。親族の基本情報は Paolo Fabbri, *I Rossini a Pesaro e in Romagna* (in *Rossini 1792-1992 Mostra storico-documentaria*, [a cura di Mauro Bucarelli], pp. 53-70.) 及び Gioacchino Rossini, *Lettere e documenti*, vol. I, 29 febbraio 1792 - 17 marzo 1811, a cura di Bruno Cagli e Sergio Ragni, Pesaro, 1992. 参照。なお、19世紀に出版されたロッシーニの家系図（1864年フィレンツェ）や Radiciotti のロッシーニ伝（Tivoli, 1927-29.）に基づく記述は誤謬が多く、信頼し得ない。

⁵ 自治都市や都市共同体、もしくは市町村行政体を意味するが、本稿では便宜上「市」の訳語も用いる。

⁶ 現在のロッシーニ劇場は1818年の再建で新劇場（Teatro Nuovo）と称され、ロッシーニ《泥棒かささぎ》で開場した。

⁷ 1798年以降に新たに娘マリア（Maria Guidarini）が生まれる。

⁸ Fabbri, *I Rossini a Pesaro e in Romagna*, p. 53. 他に準拠。Gioacchino Rossini, *Lettere e documenti*, vol. I, p. 1, n. 4 は24日とし、これを踏襲した文献もある（例、Rescigno, 2002）。

⁹ 噂を基に「ロッシーニの父親はジュゼッペではない」と断定的に書く者もいるが、憶測の域を出ず、証明されていない。

¹⁰ ジョアキーノの誕生に際し、妻の産みの苦しみの声を隣室で耳にしたジュゼッペが部屋にあった聖人の石膏像に悪態をついて棒で叩き壊し、四つ目の聖ジャコモ像を叩こうとした瞬間、赤子の産声を聞いて像の前にひざまずき、ルーゴ教区の守護聖人に感謝の言葉を捧げた、との逸話が残されているが、現代の研究者は他愛ない作り話として一蹴している。

¹¹ 1970年代までの印刷楽譜と文献では Gioacchino（ジョアッキーノ）が主流だったが、ロッシーニ財団の全集版（1979年刊行開始）とロッシーニ・オペラ・フェスティバル（1980年開始）において Gioacchino（ジョアキーノ）で統一された。本稿では引用と文献に原著表記を踏襲するため、文中と註において双方の表記を用いる。

¹² Gioacchino Rossini, *Lettere e documenti*, vol. I, p. 1. の転記で Anna に続いて Guidarini とあるのは誤り。

¹³ ロッシーニの生家の歴史と修復については Franco Panzini, *La casa natale di Rossini*. (in *Bollettino del Centro rossiniano di studi della Fondazione Rossini di Pesaro*, Anno XXVIII, 1988, nn. 1-3), pp. 77-86. 及びロッシーニの家の目録 (*La casa di Rossini, Catalogo del museo*, a cura di Bruno Cagli e Mauro Bucarelli, Modena, Edizioni Panini, 1989.) 参照。